

【活動名】 シャドーイングの要素を入れた 協働での指導案作成をきっかけとした「教師」の成長支援

横浜市立緑園東小学校

解決すべき課題： ※どんな問題を解決しましたか？

本校の教師は①「**児童の実態・課題把握**が難しい」 ②「**児童主体学習の意図・効果**が分からない」 ③「**本校の授業形態（子ども司会型）の授業設計の仕方が分からない**」 ④「**もっと授業をよくしたいがその方法が分からない**」という課題を抱えている。とりわけ、自校の児童の実態から導出された研究理念である「子ども主体で展開する学習」に基づいた授業づくり（子どもが協働で思考し、自分たちで練り上げていく学習）を進めている教師ほど、④の側へ移っていく。

目的や背景： ※解決すべき課題の背景や、活動の目的を教えてください。


本校の経験の浅い教師は、児童の実態と課題の把握について困難を抱えている。それに加えて、本校の指導方針である「児童が主導する学習形態」に対する意義の理解やその形態に即した授業を設計することが難しいという困難もある。後者については、今年度本校に着任した教師にも当てはまる。

本校では、教師主導の学習ではなく、児童自らが課題の解決のために「テキストの収集から学習の練り上げ・発信までを行なう」児童主導の課題解決型の形態を多くの教科で採っており、特に練り上げの部分では児童が司会をしながらクラスの意見をまとめている。この授業を行うためには、従来の教師主導の授業観からの転換や子どもたち同士で学習を進める時の発言内容やまとめに向かう展開と思考の流れを予測した授業設計の力が必要となる。もっとも、これには目の前にいる児童の実態と課題を把握することが不可欠である。

これらの課題解決のために、新しい課題解決の取組を導入することが望まれる。しかし、多忙である学校の現状を考えると、新たな対策を導入すること難しい。そこで本取組は、今ある学校の組織・取組・人材等の「資源」を生かしながら、それを改良することで教職員の力を伸ばし、上記の課題を改善していこうとするものである。特に、「組織・取組」においては、教師の指導力向上の研究と修養の機会として身近なものが**校内重点研究会**であることを考え、本取組においては「重点研」を基にした実践を行なった。また、「人材」としては、**本校の研究を熟知し、取組を推進している教師**の知見を他の教師に波及させる方法を考えた。

活動内容： ※何をしましたか？

①**教師同士による協働での指導案作成**・・・「授業研」における本時指導案を、同学年の教師が協働で作成する活動を実施した。ここでいう「協働」とは、一人が作成した案を他の教師が「検討」して作り上げるものではなく、協働者の意見を交えながら0から指導案を作り上げる活動を指す。なお、本校は全学年2クラス編成（個別級を除く）のため、協働は2人で行った。また、作られた本時案をもとに2人の教師がそれぞれ授業発表を行った。※単元全体の概要を確認した後、下記の流れで実施。実施学年は1～5年生・個別級 なお、協働の様子を観察したのは、4・5年生・個別級・1年生の一部である。

教師の役割	学年主任の教師（主に 授業展開を話していく 役割）	学年主任ではない教師（出された展開案を 記録していく 役割）
事前準備	本時目標と最初の発問のみを考えてくる	事前準備なし 作成中は相手に質問をしたり、提案したりする
指導案作成中	<p>授業の展開と設定の意図を提示・説明を詳細にしていく。また、児童の実態をもとにした「めざす子ども像」や、それに向けた日ごろからの授業改善（対策）についても言及。その学習展開・手立てが必要な理由も説明する。</p> <p>「まず・・・して、次に・・・。その意図は・・・。子どもの思考の流れを予測すると・・・」</p>  <p>説明・返答・新たな提案 「確かに！」「そういう、方法もあるね。」「そうすると、△△という方法もできそうだね。」「別の言い方をすると・・・。」</p> <p>賛同または、修正意見</p>	<p>相手が言ったことを、直ぐに指導計画記入シートに声に出しながら書く。（書くことによって相手の頭の中を追体験できる。シャドーイング的要素によって、理解が補助される） 「まず、・・・次に・・・、その意図は・・・」</p> <p>↓</p> <p>質問や提案を適宜入れる。分からないことは、立ち止まる。 「なぜ・・・？」「・・・はどうですか。」「・・・がわかりません。」</p> <p>それを受けての質問や提案をする。 「ここでは、やっぱり○○のほうがいいのでは？」</p> <p><以下、やり取りが続く></p>

②**協働作成した「ふりかえり」を職員全体で共有**

研究授業が終わった後に、今回の授業発表に向けた一連の取組の中で「協働での指導案作成」が教師や子どもにどのような影響を与えたかをインタビューし、活動をふりかえった。そしてその内容を職員で共有した。これは、他の教師の成長を聞くことで、各々の教師にこれからの自分の課題に気付いたり、成長を刺激する効果があるとともに、それが学校全体の成長につながるためである。共有した内容項目は、「今回の授業発表での子どもの様子」「協働での指導案作成が実際の授業に与えた影響」「協働した相手の教師に対して配慮したこと」「協働した相手の教師から学んだこと」「今後の子どもの目標」である。

活動の成果： ※それによって、どんな成果が得られましたか？（インタビューの結果より）

書く役の教師：相手の案を「聞く+書く」ことで、聞くだけの受身的な「なんとなくわかった気になっている」の状態から、相手の思考の流れを追うことができ、「わからない部分に気づき・自分が実施するにはどうするか」というように、**相手と自分を重ねて実際の授業をイメージする主体的学び**になっていた。また、分からないことは**安心してすぐに相手に聞ける**ので、学びが深まる。さらに、**児童の実態とリンクした学習展開の具体を体感**できたことと、児童主導の学習展開の方法を自ら考えて実践したことで、子ども達の成長を実感でき、**児童主導の学習の良さが理解**できたこと。

話す役の教師：相手とのやりとりをすることで**新しい案が思いついた**。相手がつまずくポイントを理解しそれを克服する方法を考えることが、逆に自分の指導の深化につながっていた。また授業展開を声に出して語り、若手からの反応を得ることで、授業を設計すると同時に**自分のふりかえりの効果**もあった。

両方の教師：授業での**活動の意図を共有**しながら作り進めることができたので、互いに改善点を頻繁に交換し、**授業改善を通じた学年づくり**ができた。

アピールポイント（アイデア）： ※もっとも、がんばったこと、注目したことをアピールしてください。

- ・ 今までにありそうで、なかった方法「協働で指導案を書く」という取組の設計・実施をしたこと。（その手があったか！ 多くの学校で実践・応用可能）
- ・ 豊かな経験とともに、本校の子どもの様子や研究の内容をよく理解した教師の知見が他の教師に引き継がれていききっかけ作りをしたこと。（知識の継承）
- ・ シャドーイングという語学習得の方法からヒントを得て、声と文字によって「後追い」を行うことで相手教師の思考に触れられたこと。（他分野の理論の応用）
- ・ 教師主導の授業観をもっていた教師が、児童主導の取組の成果を感じることで、その授業観に変化がみられたこと。（授業観の変化）
- ・ 今ある学校の組織・取組・人材を生かしながら、効果的な改善法を考えたこと。各校ごとの実態に応じて応用が可能（教育資源の活用）
- ・ 指導案を意図まで深く共通理解したことで、授業づくりを共通の話題として学年の児童理解や授業改善を進めていくことができたこと。（学年づくりへ寄与）



シャドーイングの要素を入れた 協働での指導案作成をきっかけとした「教師」の成長支援

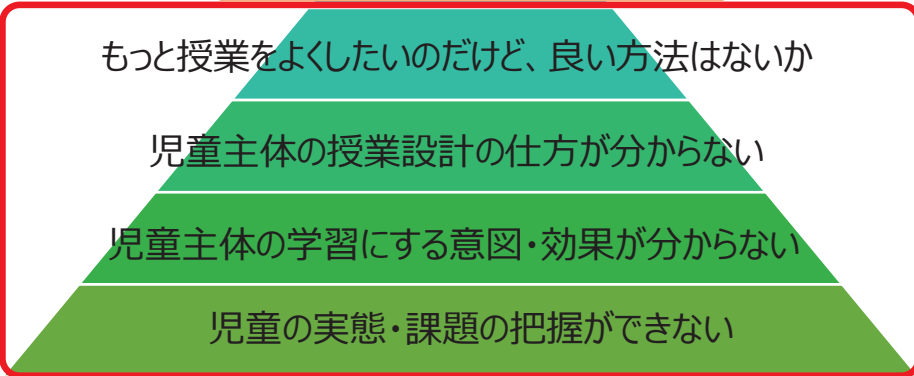
教師の課題に付随している課題

学校のチーム力を上げたい
学年のみんなで成長したい

教師経験と自校の児童の実態から導出された研究理念に基づいた授業づくりを進めるほど、上の課題に移っていく。

今年度は1～5年生、個別級で実施した。ただし、4・5年生、個別級、1年生（一部）については教職大学院派遣教諭が観察・記録者として同席した。

本校の教師の課題



課題解決の方法

「協働で学習指導案を作成」

本取組のスケジュール(2017年)

日にち	内容
7月末	協働での指導案作成・インタビュー:基本2人組で70分間
12月7日	協働作成した指導案での授業発表(12.1)後のインタビュー
12月22日	ふりかえり内容を全職員で共有

手立て 1st Step : 協働での指導案作り ※本校、全学年2クラス編成

例) 4年生 社会科の学習「私たちの町の発展につくした人の思いを考える」で、子どもが出した意見を自分たちでまとめていく展開部分

教師の役割	学年主任 (主に授業展開を話していく役割)	経験3年目教師・今年度着任 (出た展開案を記録していく役割)
事前準備	本時目標と最初の発問のみを考えてくる	事前準備なし 作成中は相手に質問をしたり、提案したりする
指導案作成中	<p>で、4番がえーと、報告だよ。グループの。グループで話し合ったことを…んー、なんて言ったらいいかなあ。ちがうな。んー。(中略)イメージできる?ざっと考えただけなんだけど。 相手が理解できるように話し始める</p> <p>えっと、まだちょっとざっくりなんだけど、(説明続く)</p> <p>この意見交換が活発にできるような授業にしたい。こないだもここでストップしたから。(子どもの意見が書かれた)板書を動かしたり、関係リンクしたり、比較したり(中略) (指導案作成の様子)</p> <p>だから、普段からそういう授業展開をいろんなところで入れていかないと。 目指す授業の展開と具体的な子どもの思考操作、対策に言及</p> <p>そう!! (肯定的返答)</p> <p>子どもにとって、「マイナス(面)」って、ちょっと出てこないね。 (マイナス面の)イメージとしては、「苦労」「苦労した点」 子どものとらえ方を指摘されることによって、言葉の概念を焦点化できた</p>	<p>うーん…(中略)マイナス面が、どういふのを書いたらいいの私イメージが…できてなくて、(中略)子どもにどういふことを言わせたいなっていうのが、今もしあれば。 自分が分からないことの意味表示ができています</p> <p>(提案してほしい。)</p> <p>子どもたちが、プラス面(道路が整備され、歩きやすくなった等)とマイナス面の意見(自然が減った等)を出して、黒板にカードを貼って、それらをくっつけたり困んだりして(中略)(板書カードを動かしながら子どものまとめが)出るっていうのは、このリンクとか比較して出てきた意見がまとめにつながっている? 学年主任が言った授業展開と意図を声に出して繰り返し、書き留めながら理解していく。(シャドーイングの要素による理解の補助)3年目の教師は児童が自分たちでまとめていくときの思考の流れを理解</p> <p>なんか「悪いこと」を考えないといけないのかなって。ちょっと難しい。 子どものとらえ方を予想</p>

手立て 2nd Step : 協働作成をした教師の「ふりかえり」を職員全体で共有

(インタビュー内容の一部を文章化)



(4年学年主任) 協働の指導案作成はめっちゃめっちゃ役に立った。Y先生に「ここは私には難しそうなんですけど」って言われると、「あ、そっか。」って気づいて、他のいろんなやり方を考えるでしょ。こう、客観的に気づけるから自分にとっては理解が深まったよ。

(4年今年度着任・経験3年目) K先生が展開を言葉で言ってくれるだけだと、「ああ」って何となく分かった気がしていたんだけど、自分で書くので「ん？」ここはどういうことだろうって、頭が整理されます。すぐに聞ける安心感もあります。気が付きが多く、たいぶ助かりました。子ども同士で意見をまとめる学習に取り組むと、子どもたちも成長するんだなあって思いました。想像以上でした。

(1年学年主任) みんなでやると、なんか気持ちが明るくなるね。一人だと暗くなる。(精神的な負担感)下がるよ。それに聞いているうちに自分の勉強にもなるしさあ。聞きながら自分も考えるし、質問もするし、一緒に考えられる。

(個別級初任者) (指導案検討のことを思い浮かべて) 考えた上で出来上がっているものに対して意見は出しにくい…

(個別級ベテラン) 最初、暗中模索だったけど、いろいろ自分の中で定まっていた。頭の中で。今まで自分が思っていた授業観と意見を聞いたことで、どんどん、こういうふうにならったり、定まったりしていった。深まったって言っちゃあ、おかしいけど、で、固まった。最後に。っていう感はある。

(5年今年度着任) 作成中に意見を求められるから、ありがたい。指導案検討の時も一つ一つ考えの経緯を話すわけじゃないから、内容を共有しやすくなる。

成果

- 特に若手は、授業づくりという具体的な視点から、児童の実態を把握する視点を獲得してそれに合わせた学習活動を設定の仕方に触れることができた。
- 質問されたり、分かりやすく説明しようとしたことで、今まで気づけなかったことに気付いた。また、新しいアイデアを発想することができた。
- 指導案の意図までを共有できているため、指導案作成後も改善点を頻りに交流するようになり、授業が深まり、学年全体にもよい影響があった。

課題

- 児童主体の学習に触れるきっかけとなり、その後の取組の成果を実感することで、教師主導の学習観から児童主体の学習観へ転換していった。
- 授業展開を記録する教師が展開を話す教師に質問するための手立て(例5W1Hなど)をもっと精緻化する必要があった。

子どもにさせたい協働思考をまず、教師が行っているわ。どの教師も子どもたちに確実に力を身につけるために様々な取組を惜しまないことに感動!!

校長

